

「九条の会 アピール」

2018年06月06日

私は牧師を隠退してから、時間が取れるようになったので、3つの市民運動に参加している。一つは、憲法九条を守り平和を求める運動で、地域の人々と共闘し、集会、駅頭でのリレートーク、そして、安保関連法違憲訴訟の原告に加わっている。二つは、原発反対の運動で、2つの裁判の原告に加わっている。三つは、沖縄問題で、辺野古の新基地建設に反対する運動に協力している。これらの市民運動は、主イエスの福音から押し出された信仰のこととして、私は関わっている。中でも、「九条守れ」の平和運動に力を注ぎ、改憲阻止の3000万人署名活動をしてきた。米朝首脳会談は平和のため、苦しむ北朝鮮の民衆のためにも、成功してほしいと願う。米国の忍耐にかかっているのではないか。「九条の会」から下記のようなアピールが出されたので、転載したい。

「3000万人署名を達成し、安倍9条改憲に終止符を」

あいつぐ悪政に対する怒り、そして3000万人署名の広がり、いま安倍政権を急速に窮地に追い込んでいます。

森友学園建設に絡む文書改竄、加計学園の獣医学部新設への関与、うそにうそを重ねる答弁さらに自衛隊の「日報隠し」は、安倍首相、安倍政権に対する不信を高め、内閣支持率は支持と不支持が逆転する状況が続いているばかりか、こんな安倍首相に改憲を語る資格はない、という声が増大しています。

「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が提起した3000万人署名への賛同者は、4月末日現在で1350万人を超え、安倍政権に対する怒りと不信の高まりにあわせて急速に人々の数をふやしています。草の根の市民の会や九条の会の中には、自分たちでたてた目標を達成するところが次々に生まれています。

安倍首相がもくろんだ今通常国会への改憲原案の提出と発議は実行できる見通しがたなくなり、改憲強行のスケジュールは大幅な後退を余儀なくされています。

9条改憲の危険性、時代錯誤も明らかになっています。

いま、米朝さらには南北朝鮮の間で、朝鮮半島の非核化と長く続く「休戦状態」を終結させる努力が続けられています。ジグザグはありながら、力づくではなく話し合いにより平和を実現する道が模索されています。これこそ、9条がめざす道です。

ところが、いま安倍9条改憲がめざすのは、話し合いによる道とは全く逆、米軍の北朝鮮攻撃に日本が武力で加担する体制をつくることであり、武力による「解決」を加速する方向にほかなりません。このような改憲を許すわけにはいきません。

しかし、安倍政権、自民党は9条改憲の強行をなおあきらめていません。今国会で改憲手続法の改正を実現することで改憲の火を継続させ、ほとぼりを冷まして、秋の臨時国会での改憲原案の提出をねらっています。

安倍改憲に終止符をうつには3000万人署名の力で改憲発議を断念させ、安倍政権を退陣に追い込むしかありません。安倍政権を退陣に追い込んでこそ、改憲の策動は止まります。いま、全国津々浦々で3000万人署名のとりくみが精力的にすすめられています。しかし、安倍首相のもくろむ9条改憲に危惧や不安を持ちながら声をあげる機会をもたない人々、署名のよびかけを待っている人々が、全国に、まだまだたくさんいることも間違いありません。何としても、3000万人署名を達成しましょう。改憲発議を断念させ、9条改憲に終止符をうちましょう。

2018年6月1日 九条の会